東京金山会のページにアクセス！

東京金山会通信 No.32

問い合わせ
東京金山会 広報担当（藤山善夫）
☎080-5525-0435
✉fujiyama.d.siren@ae.auone-net.jp

いつのまにか、足元が冷えるくらいの東京。そろそろ冬の準備を始めなければならない季節ですね。今回はそんな足元から暖かくなるコラムと、Somewhere in Tokyo「東京のどこかで」と題して、「花」をめぐるアートの話題です。

「東京金山コラム」Vol.11「囲炉裏端」

なぜか囲炉裏端には、おじいちゃんの姿が似合う。黒い鉄器があって、黒いすすと柔らかい空気。東京の近代的な母屋では、今は家の中、マンションならなおさら、スプリンクラーが作動してしまいそう。火を起こす事自体がはばかれるだろう。
囲炉の周りには、不思議と人が集まる。寒い夜でも暖かく、白湯かお茶かをいただいて、外に積もる雪を忘れさせてくれる。おじいちゃんの「昔話」を聞きながら、冷える足先も、霜焼けも忘れるくらいに暖まる囲炉裏端。絶対に忘れたくないですね。

Somewhere in Tokyo 「東京のどこかで」

谷中近隣での撮影後に、ドライフラワーがもったいないなと思い、フラワーアーティストさんへ意見を聞いたら、彼女いわく「いつも生花扱ってるから、バッサリ捨てな。潔さも大事だよ！必要ならまた造るから!!」と。気風の良さ、感銘。写真は、製作に丸２日かかるドライフラワーのティアラ。

ぶんばい

金山杉俳句会報 第四五七回

かねやま紅風会

亡き夫へ新米の香を届けたし　荒屋　阿部　勝子
もう一度外へ出て観る十三夜

清めたる観音堂や草紅葉　荒屋　関　喜美子
実りをる期待背負ふた落花生

一言に尽きる美味さよ今年米　菅越　庄司　けみ子
山々に迫る黒雲冬近し

旧友の訃報電話や秋灯　七日町　青柳　キエ子
夕暮れの時を逃さぬ秋時雨

見て呉れの容姿で咲くや返り花　羽場　坂本　徳太郎
植えつけの玉葱の苗針のごと

野良畑や秋の一日を惜しみをり　上台　阿部　一歩
長齢を身丈に任す萩の花

口数の減らぬ老なり松手入れ　七日町　村松　奏風
小手捌きなんと見事な冬囲ひ

朝採りの枝豆供ふ十三夜　星川　キエ子
赤信号待つ間ハミング里の秋

堀を越え紅葉舞ひ来る手水鉢　岸　昭子
セラピーの馬と戯る秋の原

満月の家並麗し羽州道　高橋　洋子
モルックをやると秋日に集ふ民

菊膾器の中に妣もゐて　栗田　弥超
色変へぬ松卒寿まで五里の道

木の葉舞ひ人影も無き吹溜り　阿部　一代
気がつけば銀杏色付き季を知る

散り敷きて足裏擽る銀杏の実　鶏沼　よし子
秋簾巻きつ記憶を辿りけり

「図書室だより」

中央公民館内　9：00 ▶ 16：00

No.190 「森の子ども図書コーナー」

交流サロンぽすと内

『こどもかいぎ』
（北村裕花/作・絵
フレーベル館）

「これからこども会議を始めます」
「今日のお題は、『怒られたときはどうしたらいいか』です。皆さん、意見を聞かせてください」
「はい！私はごめんなさいって謝るのがいいと思います」
「はーい！泣いちゃうのはどうかな？」
「はいはーい！笑ってごまかすのは？」
だんだん話は逸れて、しまいにはどっちのパパやママが怖いかでけんかまで始まっちゃって。なんとか議長が場を納めて議論が再開。そして、出された驚きの結論とは？

『解きたくなる数学』
（佐藤雅彦／岩波書店）

あの「ピタゴラスイッチ」制作メンバーが、これまでにない数学問題集を作りました。そこには、ひと目で心を奪われる問題ばかり。数学が苦手な人も得意な人も、魅力的な写真とグラフィックで表現された23題に、きっと夢中に。考える楽しさを求める中学生以上のすべての方へ。

『きっと誰かに教えたくなる蚊学入門』
（一盛和世／緑書房）

身近な存在でありながら良く知られていない、蚊の世界。蚊から派生する多面的な世界を〝蚊学〟として捉え、蚊の生物学、蚊と人間が歩んできた感染症対策の歴史、蚊が運ぶ感染症、さらに飼育方法まで解説。人間社会で悪役になりがちな存在ではあるものの、実は不思議で面白い〝蚊学〟の世界をのぞいてみよう。

＼今月は８冊！／

新刊本 12月

※（　）内作者名

むかしむかしあるところに、やっぱり死体がありました。（青柳碧人）／N（道尾秀介）／月夜の森の梟（小池真理子）／オーラの発表会（綿矢りさ）／目の見えない白鳥さんとアートを見にいく（川内有緒）／認知症世界の歩き方（筧裕介）／よけいなひと言を好かれるセリフに変える働く人のための言いかえ図鑑（大野萌子）／腰痛がたちまち消える３秒ストレッチ（神田良介）

地域おこし協力隊 通信 No.5

隊員　本間　真生

金山町 地域おこし協力隊

「みつける、金山展」開催しました！ かわらばん「やんばい」は1月発行予定！

こんにちは、協力隊の本間です。
10月31日から11月30日の約1ヶ月間シェーネスハイムの1階において「みつける、金山展」を開催しました。
この展示は私を含めた町外出身の4人が作品を通して「金山でみつけた美しさ」を表現しています。今回は、写真、灯篭、絵画、草木染めなどを展示しました。
私が金山町に来て約半年が経ち、金山の暮らしは本当に豊かだなと日々感じています。四季折々の食材や自然。そしてお土産品や飲食店など。金山の資源を使い、生産者の想いなども感じることができる、すごく贅沢な時間が金山にはあると感じています。
今回沢山の人に見ていただいて「金山にこんなお土産品があるなんて知らなかった！」や「若者視点で金山を切り取ってもらえて改めて金山の良さを感じた」などの声をいただきました。本当にありがとうございました！写真は、引き続きシェーネスハイムのレストランへ行くスロープに展示していますので是非ご覧ください。
さて、かわらばん「やんばい」は1月に発行予定です。1月号はどんなテーマで発行するのか！？お楽しみに！

Facebookで活動を発信しています！ぜひチェックしてください！